

令和3年度

# 教育基本方針

学校法人 中央工学校

中央工学校 O S A K A

## 1 本年度の基本方針

本校の各部署においては、本年度、下記の事項に留意し、安定した学校基盤を構築し、円滑な学校運営を推進する。

### (ア) 教務室

- (a) 職員間の共通理解と協働体制を向上させ、計画的かつ円滑な校務運営を目指す。
- (b) 業務の担当領域の明確化を図り、組織的で合理的な遂行に努める。
- (c) 業務の質的向上を促進させ、学校の信頼度を高める。
- (d) 学内情報管理システムの円滑な運用を開始し、学校全体の業務の合理化・迅速化を推進する。
- (e) 個人情報に関する書類等の管理・取り扱いの厳格化を図る。
- (f) 建築系及び国際系のカリキュラム改編に伴う学則変更手続き等を適切に行う。
- (g) 高等教育修学支援新制度の学生への周知徹底とその業務の円滑な遂行に努める。
- (h) 高大接続改革に関する情報を収集し、建築系と連携して対応策を検討する。

### (イ) 建築系

- (a) 新型コロナウイルス感染症の影響による社会の変化に対応するため、教育内容及び教育環境を見直す。
- (b) 実践的な能力を備えた人材を育成するため、産学協働を意識した演習授業の充実に努める。
- (c) 職員は自己研鑽に努め、学生の多様性と個性を尊重した、成果の挙がる教育方法と学級運営方法を習得し、その力を向上させる。
- (d) 学生の理解度・満足度を向上させ、授業の質を確保しつつ、夜間部の廃科を機に、学生の午後5時下校を促進するため、授業内容・実施計画を見直す。
- (e) 一級・二級建築士試験合格を支援するための具体的な仕組みづくりを検討する。

### (ウ) 国際系

- (a) 特色ある授業や卒業後の進路に応じた教育をはじめ、在籍管理をきめ細かく行い、留学生や日本語教育機関への信頼度と知名度を高め、持続的な定員充足に努める。
- (b) 業務に対する共通目標と協働体制の意識を堅持し、業務の質的向上を促進させ、計画的かつ円滑な運営を目指す。
- (c) 日越通訳・翻訳科及びブリッジシステムエンジニア科において、企業・官公庁のほか、他の専門学校と連携を深め、社会のニーズに即した人材育成を推進する。
- (d) すべての留学生に日本語能力試験のほか、大学進学希望の留学生は日本留学試験、就職希望の留学生はビジネス日本語能力検定等を受験させ、進路選択幅の拡大を図

る。

(e) 新型コロナ禍での留学生に対する企業の求人動向を注視し、情報収集に努め、オンライン企業説明会等への学生の積極的な参加を促す。また、インターンシップ先や就職先の開拓に、より一層努める。

(f) 年々厳格化している大学入試状況に対応するため、入試情報の収集に努める。

## 2 本年度の留意事項

### (1) 学校運営

#### (ア) 学校経営の健全化の促進

##### (a) 学生数の増加の促進

18歳人口が2018（平成30）年度から急減期に入り、大学入試改革の推進等の環境の変化もあり、専門学校の新規募集は極めて厳しい状況にある。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に進学をあきらめたり、都市部への進学が敬遠されたりする懸念もある。

そのような中、「資料請求数」「イベント参加者数」「出願数」「入学者数」のステップに基づく歩留り率を把握し、実績の変化から課題を抽出したうえで、全校一致の広報体制づくりを築き上げるようにする。

また、そのうえで本校のストロングポイントを一貫して訴求していき、入学者の早期獲得・増加につながるようにする。

##### (b) 休学・退学防止策の検討

新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン授業や行事の変更等、非接触が求められる学習環境の中、学校生活の充実や仲間づくりを促すために、より工夫が必要な状況となっている。オリエンテーションやガイダンス、ASHの内容を見直し、先生や先輩、友達と交流しながら学べる機会を意識して設け、学生の学校生活に対する充実感をしっかりと醸成する。

また、非常勤講師の協力を仰ぎ、常に個々の学生の状況を把握し、気になることがある学生については、保護者と連携して早期に対処するため、授業前、授業後には非常勤講師と状況確認を行う。

さらに、全員の出席率が90%以上となるようにクラス全体に対する教員の指導スキル向上を目指す。

##### (c) 留学生の安定した確保

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、日本語教育機関の卒業予定

学生が少ない。そのため、日本語教育機関への営業活動をより一層きめ細かく行い、まずは卒業予定・希望学生の数を早期に把握したうえで、戦略的に広報活動を展開する。

日本語力に不安はあるが、大学への進学を希望する学生には、国際コミュニケーション科へ進学してもらえよう、本科の応用日本語の授業内容や少人数制による手厚い進路指導、進学実績をアピールする。

日越通訳・翻訳科に関しては、今年度は、海外からの直接募集も視野に入れ、現地の外国語大学の日本語科等にも広報活動を展開させる。

今回の新型コロナウイルス感染症により、今後の留学生の日本留学への流れそのものが見えにくくなっていることもあり、経営の安定化を図るため、ブリッジシステムエンジニア科と通信制高校をコラボレーション（Wスクール）させ、日本人学生とASEAN諸国の学生と一緒に学べる道を模索し、日本人学生の確保も目指す。

#### (d) 内部進学者の増加の促進

進路選択の一つとして、建築系の学科においては研究科、国際系においては建築系の学科への進学情報について、時期を逸することなく適切に提供し、内部進学者を増加させるようにする。

建築系においては、建築学科、住宅デザイン科の半数程度を研究科へ進学させることを目指す。そのために、研究科の存在感を1年生に示す機会を意識して設け、魅力をアピールする。

国際コミュニケーション科の8名については、次年度の日越通訳・翻訳科の進学希望者のため、内部進学できるよう、指導を進める。

#### (e) 合理的な広報活動の方策の確立

建築系においては、オープンキャンパス等の広報イベントのほか、高校訪問や会場・校内ガイダンスの参加等について、学内情報管理システムを活用し、昨年度の実績数値の把握ときめ細かい検証を行い、効果的な広報活動の展開に努める。

オープンキャンパスではわかりやすく、魅力的に教育内容をアピールするため、見直しを常に行い、やる気ある参加者にとって入学の決め手となるよう工夫する。

建築系留学生の広報活動を国際系と集約し、ホームページや募集要項オープンキャンパスにて配布する資料、説明内容等に不整合がなく、ビジュアル的な統一感に留意し、印象に残るように、総合的な見直しを行う。

国際系においては、パンフレット、入学説明会のチラシ等はランニングコストを十分考慮し、在版流用できる形式とし、コストを削減する。昨年度は、春先の営業活動ができなかったため、夏以降、ガイダンスに参加したが、費用対効果が全く見られなかったため、本年は、日本語教育機関への個別営業を重点的に行う。

2019、2020年度入学生の母校の日本語教育機関には、昨年度同様、指定校推薦の枠を設け、早期の学生確保に繋げる。

## (イ) 特色ある学校づくりの推進

### (a) 環境教育の促進

社会においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、在宅勤務等の生活の変化が、顕著になることが予想され、住宅はそれと共に環境配慮や、省エネやサステイナブル（持続可能）建築への対応が強く求められるであろう。

このため、どの授業においても環境配慮の発想を取り入れ、環境問題の解決のための手段を建築学科設備コースはもとより、建築系全体で充実させていく。

### (b) BIM教育の推進

BIMの特性を実感できるよう、多くの授業でBIMを用いた教材の作成を推進している。今後は、学生の図面や設計力を高め、正しくBIMを活用することによる課題作品の精度、表現力の向上を目指す。

### (c) 資格取得の推進

建築系においては、資格取得率の改善を図るために、建築分野に必要な2級施工管理技術士補について、少人数授業として指導が行き届くように考慮する。

国際系においては、日本語能力に関する資格にとどまらず、ビジネス日本語検定、ビジネスマナー検定、JAV A認定試験等の資格試験に挑戦させ、日本語能力に関する資格にプラスアルファの資格取得を目指す。

また、重要度の高い資格は、担当の専任職員が常に状況を把握できるようにし、事務的手続きにも間違いがないように留意する。

### (d) 人間涵養教育の推進

本校の3つのポリシーをしっかりと伝え、学生生活のしおりに用いて、日々の心掛けを意識させるよう指導する。新型コロナウイルス感染症の影響で軽井沢研修に行けないため、校内で集団行動や規律を身に付け、日本文化や異文化の理解を深めるための新たな研修を充実させていく。

国際系においては、「自主、自覚、自律」を基本方針とした教育を推進し、自立した人材の育成に努める。

(e) 建築士試験の受験要件緩和への対応

2020（令和2）年度より改正建築士法に基づいた一、二級建築士試験が実施され、工業高校卒業生の在学中の二級建築士試験受験、卒業後すぐの一級建築士試験受験、普通科高校卒業生は、研究科で二級建築士資格取得後、すぐの一級建築士試験受験というスケジュールが現実味を帯びてきた。研究科の模擬テストを研究科以外の1、2年生も受験可能にし、1、2年生向けの受験ガイダンスを充実させて対応する。今年度は一級向けサポート体制の構築を検討する。また、それに対応できる授業の見直しを推進する。

(f) 施設・設備の充実化

老朽化あるいは劣化の著しい施設の改修、及び設備の整備・充実化を適切に進める。

(ウ) 業務の効率の向上

(a) 職員数に応じた業務体系の確立

引き続き、業務の合理化を図るとともに、職員数、専門性に応じた業務体系を確立し、定時退勤及び時間外勤務の削減を促進する。

(b) 業務内容の点検・見直しの促進

引き続き、業務内容の点検・見直しをきめ細かく行い、少人数で遂行できる業務は、合理的に分担し、さまざまな業務が並行して進行できるようにする。

(c) 効率的な業務の推進

引き続き、学内情報管理システムの導入から運用に向けて、不要な業務の見直しや文書の簡素化、さらなる業務の効率化を図る。

(d) 職員間の相互扶助の促進

職員間の一体感を高めるため、業務内容の相互理解を深め、適切な扶助のための動きが取れるようにする。そのため、頻繁にショートミーティングを行うことや、一人ひとりのパフォーマンスの向上も必要である。

(エ) 職場環境の改善

(a) 挨拶の励行

職員間のもとより、来客等への挨拶を励行し、明るい学校及び職場づくりに心掛ける。日々のコミュニケーションが自然にできる環境づくりは、挨拶からであることを意識する。

(b) マナーの向上

職員としての服装や言葉遣い等に留意し、また学生生活のしおりが、形だけの

ものにならないよう、職員が率先して学生生活のしおりにあることをおろそかにせず、学生・留学生の手本となるようにする。

(c) 校内美化と整理・整頓の推進

ポスター等の適切な掲示や物品等の整理・整頓に心掛け、良質な学習環境を維持する。

(d) 作品等の掲示・展示方法の改善

学生・留学生の作品の展示をはじめ、資格の合格者、コンペの結果等をできるだけ早く掲示・公表し、祝賀ムードを盛り上げる工夫をする。建築系及び国際系の特徴・学校らしさや心andraげる雰囲気醸成する。

(e) 職員間の情報の共有

部署ごとのミーティングを定期的で開催し、学生・留学生の情報や職員が個別に抱える課題等の共有を図り、風通しのよい職場環境を整えるようにする。

また、互いに謙虚な気持ちや学び合う姿勢、相互扶助の精神を持つとともに、全員が専門性を常に高める努力を怠ることなく、誰もが人材の育成を担う意識を持つ。

(オ) 附帯教育事業の充実化

(a) 新規プログラムの研究・開発

地域や社会の課題、産業界、関係団体等のニーズを適切に把握し、新たな生涯教育を研究・開発する。

(b) 産学連携プログラムの開発

求人やインターンシップを通じて企業等から積極的に産学連携に係わる情報を収集し、ニーズの高い魅力あるプログラムとして、業界の情報や知見が集積している本校の強みを活かした、業界向けのセミナー等を開発する。

将来は、業界の情報や研修の拠点として、広く活用してもらえることを目指す。

(c) 中央工学校生涯学習室等との連携強化

中央工学校生涯学習室等と連携し、新しい講座を開拓する。

(d) 外部機関等への教室の貸し出しの促進

日程や収容人数等が可能な限り、各種講習会や各種試験等への教室の貸し出しを積極的に行う。

(e) (学) 中央工学校OSAKA一級建築士事務所の業務の積極的な推進

建築設計に関する幅広い知見を有している本校が設計事務所として実務に携わることの意義を意識し、社会に貢献できる設計事務所となることを目指す。

建築系の学生・留学生に対し、当一級建築士事務所の実務と結び付いた授業やクラブ活動等とおして、建築士制度について理解を深めさせるとともに、建築物を創り出す喜びや楽しさを体験させ、建築業界に一人でも多くの有為な人材を送り出す。

また、職員に対し、非常勤講師との連携による、当一級建築士事務所での建築物の設計及び設計監理をとおして、建築の最新の技術や知識を習得させ、授業等に反映させるようにする。

#### (カ) 高大接続の対応

2020年度の教育改革の一つである高大接続入試の実施に向けて、より一層教育の質向上や学校評価等を通じた教育成果の可視化が求められている。

新たな時代に向けて国内外に大きな社会変動が起こり、多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力が重要になり、知識の量だけでなく、問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力が重要になる。このため、中央工学校OSAKAの3つのポリシーを明確にし、教育に相応しい評価や入試のあり方等の教育改革に取り組むようにする。

#### (キ) 非常勤講師との連携の促進

##### (a) 情報の共有化

クラウド型学内情報管理システムの導入により、安全に個人情報の取り扱いが可能となる。学生の個々の出席状況や学習態度、進路希望等の情報を職員と非常勤講師の間で共有し、効果的な学習指導を行い、休・退学を防止する。

また、学内情報管理システムのWEBポータルサービス(インターネット掲示板)を自然災害発生時の一斉連絡に使用するとともに、学校行事の案内や、アイデア募集等にも活用していき、連携を深める。

##### (b) 学校行事への参加の促進

卒業成果・制作発表会等の学校行事について、非常勤講師の協力を得て、常に見直し改善を試み、充実した内容にしたうえで、オンラインを活用して、できるだけ非常勤講師に公開することで、関心を高め、盛り上げて参加を促進する。

##### (c) 意見交換会の開催

職員と非常勤講師の意見交換会を適宜開催し、授業運営やインターンシップ、就職、広報活動等を改善する。活発な意見交換会のために、非常勤講師全員への開催の周知や議事録の公開等の工夫をする。

##### (d) 学科内方針の共有



学科内で授業の到達目標を具体的に設定し、科目ごとの連携・引継ぎは、担任がコントロールしていく。さらに、学生・留学生への指導方針を定め、職員と非常勤職員の間で共有し、スムーズな対応が行えるようにする。

また、非常勤講師からの意見や提言をもとに、授業方針の改善・見直しを行い、現場の実情に沿ったカリキュラム、授業であり続けるために努力する。

#### (ク) 職業実践専門課程に係わる取り組みの推進

##### (a) 企業等と連携した実習・演習等の実施

建築系ではインターンシップのほか、企業等と連携したプロジェクトやプログラムを実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップの受け入れを断られたり、中止を検討したりしなければならなくなるケースも増えている。

そのような中でも、職業実践専門課程として、日々変化する現場の状況に即した技術を確実に習得させ、専門性の充実化及び高度化が図れるよう、オンラインを活用した実施方法の検討や内容の見直しを継続して行う。

##### (b) 企業等と連携した職員研修の実施

職員の指導力を向上させるため、継続的な職員の研修が必要である。とりわけ、オンライン授業におけるファシリテーション技術を早期に習得しなければならない。

また、関係専門分野の企業等と連携した見学を中心とした研修も引き続き行っていく。

##### (c) 教育課程編成委員会等の意見の活用

教育課程編成委員会における意見・提案等を踏まえ、新しい科目の開設やカリキュラムの改善等を行い、社会のニーズに即した教育や職員の人材育成にも生かしていきたい。

##### (d) 学校関係者評価書の作成・公開

学校関係者評価は、あらかじめ職員が作成した学校自己評価に基づいて定期的に行っており、学校関係者評価書をホームページで公開している。

また、学校関係者評価の作成・公開は、昨年度から実施された「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」（高等教育の無償化）の機関要件の一つでもある。

これらのことを踏まえ、学校関係者評価書の作成を通じて問題点や課題を抽出し、学校運営の改善と発展を目指すとともに、公開によって学校への理解を一層得られるようにする。

#### (ケ) 国際系の取り組み

##### (a) 入学者数の安定的確保

目的意識がはっきりしていて出席率が高く、経費支弁状況が明確な留学生を確保する。

(b) 入学後の在留資格更新の円滑化

入学者すべての在留資格更新が円滑に行えるよう、送り出しの日本語教育機関と連携を図り、在留期限の把握、必要書類の収集、精査を徹底する。

(c) 除籍・退学の防止

出席率の管理、在留カードのチェック等をきめ細かく行うとともに、常に留学生の言動に留意し、除籍・退学の防止に努める。新型コロナウイルス感染症発生以降は、アルバイト状況の把握と学校からのアルバイト紹介が、退学への抑止力となっている。

(d) 各学科の特色の鮮明化

「国際コミュニケーション科」においては、クラス編成を少人数制にし、一人ひとりに手厚い進路指導を行うことを特色とし、他校との差別化を図る。1期生が全員志望校に合格できた実績をアピールする。

「日越通訳・翻訳科」においては、他校の同系学科では行われていない日本人教員とベトナム人講師による二人体制での通訳・翻訳の授業を展開し、より留学生の理解度を高める。

「ブリッジシステムエンジニア科」では、企業のニーズを踏まえたカリキュラムによる実践的な教育を展開する。

就職を目指す「日越通訳・翻訳科」、「ブリッジシステムエンジニア科」の両学科では、1年次より授業内で企業招集、会社説明会等を行い、早期よりインターンシップを取り入れ、就職活動への意識形成を行う。

(e) 進路指導のための情報収集

進学希望者に対しては、大学・専門学校の入試動向を把握し、就職希望者に対しては、企業や他の専門学校と連携し、情報収集及び提供を適切に行い、留学生の希望する進路の達成を図るようにする。

(f) 実践的日本語力の取得の強化

日本留学試験や日本語能力試験の対策とともに、就職を目指す「日越通訳・翻訳科」、「ブリッジシステムエンジニア科」の2学科においては、ビジネス日本語の習得やプレゼン力を身に付けさせ、日本語の運用力を高める。

また、専門科目での理解不足がおきないように、専門用語の日本語でのフォローに努める。

(g) 国際コミュニケーション科の今後の在り方の検討

国際コミュニケーション科においては、文部科学省及び出入国在留管理庁が示す「専ら日本語教育を行う別科」への対応方策に留意しながら、学科の今後の在り方を引き続き検討していく。

(h) カリキュラムの見直しの検討

経営と教育のバランスを考え、カリキュラムの見直しを検討する。

## (2) 学習指導

### (ア) 重点事項

(a) 学校行事及び研修内容の見直し

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪）」がオンライン開催となったため、秋のイベントを『六甲ミーツ・アート』の参加に変更した。学生には、建築やアートを学ぶ機会として、充実させることができたが、今後も学生の学びの機会としてのこれらのイベント工夫と改善を続けていく。

また、卒業成果・制作発表会について、学生・留学生数の増加への対応や卒業作品のレベルアップを目指したプログラムの変更及び作品の顕彰等は、昨年度は遠隔会議システムZoomを活用することで、実施することができた。さらに、表彰にあたり審査員の評価をオープンにする等、より充実した内容になったことを踏まえ、今後は卒業成果・制作作品のレベルアップに向けた改善を加えていく。

本年度も、企業・高校等からの参加の促進、卒業成果・制作作品集の質的向上を図るようにする。

国際系においては、学校とアルバイトの往復だけになりがちな留学生に、さまざまな体験を授業内で経験できるように、課外活動や校外学習を取り入れる。それらの活動を通して団体行動の大切さを学び、異文化への興味、社会への関心が広がるよう、また2年間という限られた学生生活の中で友人との思いで作りの場となるような機会を提供する。

(b) 学生ラウンジの活用

学生ラウンジを学生・留学生や職員の食事のほか、学生・留学生間及び学生・留学生・職員・非常勤講師間の交流、クラブ活動、セミナー、作品展示、地域開放の場等としての活用を一層進める。

(c) 中央工学校グループ校との連携の強化

建築系においては、国内建築研修において、中央工学校の充実した新校舎設備を使った授業の実施を検討し、さらにその際の学生・留学生間の交流等発展を目指す。また、オンラインを活用した、新しい交流や合同イベント等を企画していく。

国際系においては、グループ4校の留学生担当職員と定期的に意見交換、情報交換を行い、在籍状況や留学生に関する事案、問題点について共有する。

(d) 日本の伝統文化の体験の促進

隣接する服部緑地の日本民家集落博物館を利用した古民家の見学会や、茶道等の体験等、学生・留学生のわが国の伝統文化に接する機会を引き続き充実させていく。

(e) 教育成果の外部への発信の推進

ホームページや学校アプリ等の各種広報媒体を通じ、授業をはじめ、コンペの成果、学校行事・クラブ活動の様子等、日頃の教育成果を積極的に外部に発信し、本校の教育の取り組み内容について、一層理解を得られるようにする。

学生・留学生のアイデア、デザイン成果については、学生個人の著作権を守りつつ、広く社会に役立てることができるよう、製品化や特許や意匠登録の権利取得について模索していく。

**(イ) 建築系**

(a) 目標

◇『厳しい実務教育』、『人間涵養教育』

(b) 基本方針

(i) 各学科の特色化の推進

(ii) BIM教育及び環境教育の充実

(iii) 各科目の目標・成果の明確化

(iv) 内部進学を踏まえた研究科の目的・カリキュラムの見直し

(v) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減

(vi) 教育設備の充実

(vii) 職業人としての意識醸成と進路指導の充実

(viii) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上

(ix) 地域活動及び国際交流、社会貢献の強化

(x) プレゼンテーション能力の向上

(xi) 各種コンペティション参加の促進

- (xiii) 資格取得の促進
- (xiv) 授業に臨む姿勢・マナーの改善
- (xv) 喫煙指導の徹底
- (c) 具体的方策
  - (i) 各学科の特色化の推進
    - ◇研究科
      - 二級建築士建築士試験の合格率の向上及び後期の学習内容の充実
    - ◇建築学科
      - B I Mや環境教育の充実化と建築・管工事施工管理技士の資格取得の奨励
    - ◇住宅デザイン科
      - B I Mやスマートハウス、ユニバーサルデザイン教育の充実
    - ◇インテリアデザイン科
      - デザイナーとして独立、自営を目指す経営戦略を身につける教育の強化
  - (ii) B I M教育及び環境教育の充実
    - ①B I M関連ソフト（専門科目・演習科目）を使用する授業の増加を図る。
    - ②環境問題の理解とS D G sの概念の浸透を意識する。
  - (iii) 各科目の目標・成果の明確化
  - (iv) 明確かつ適切な目標設定による授業の理解度・習熟度の向上
    - ①学生・留学生の興味や関心、進路希望等を把握し適切に簡潔で具体的な目標をシラバスに明記する。
    - ②カリキュラムを意識し学生の習熟プロセスに見合う目標を学生・留学生に示す。
  - (v) 内部進学を踏まえた研究科の目的・カリキュラムの見直し
    - ①二級建築士資格の存在感と研究科の魅力をこまめに伝え、興味関心を高める。
    - ②学生・留学生と業界のニーズを分析し、研究科後期授業の内容を検討する。
  - (vi) 遅刻・早退・欠席者及び休・退学者の削減
    - 学生・留学生、保護者への連絡体制を整備し、早期に対応できるようにする。
  - (vii) 教育設備の充実
    - 2階出力コーナーに設置した大判カラープリンターの利用方法を改善する。
  - (viii) 職業人としての意識醸成と進路指導の充実
    - 非常勤講師との連携、情報交換による効果的な指導を促進する。
  - (ix) 地域活動及び国際交流、社会貢献の強化

①生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪への参加を含め、建築ができる社会貢献について考えさせる。

②地域や社会への問題に気付くような機会を増やす。

③地域や社会の問題解決や問題発見ができる課題を与え、成果を発信することを支援する。

(x) プレゼンテーション能力の向上

日頃の作品発表においては、伝えたいことを時間内で魅力的に伝えるための作品情報の編集能力を養う指導を強化することに留意する。

また、作品自体に意図やメッセージを込めることを意識することが重要であることを指導する。

(xi) 各種コンペティション参加の促進

引き続き、授業の課題として取り組むコンペティションにおいては結果ができるように戦略も指導し、実践を実感できる経験として、より一層のレベル向上を図る。

(xii) 資格取得の促進

自分にとって必要で、頑張れば取得できる資格に自主的に挑戦し、結果を出せるよう、適切な情報提供に努める。

(xiii) 授業に臨む姿勢・マナーの改善

全職員と非常勤講師が学生の成長を支援する立場の人間であることを意識し、学生・留学生への声掛けや注意を、その場で簡潔に行い、速やかに関係者で共有することを促進する。

(xiv) 喫煙指導の徹底

可能な限り学生・留学生の年齢を把握し、未青年の喫煙を見逃さないよう注意する。また、成人においても喫煙マナーに反する行為は厳しく指導する。

(ウ) 国際系

(a) 目標

◇質の高い日本語教育と専門教育の実践

(b) 基本方針

(i) 特色あるカリキュラムの編成

(ii) 授業の理解度・習熟度の向上

(iii) 演習授業における日本語のフォローの促進

(iv) 進路指導のための資料・時間の充実化

- (v) 遅刻・早退・欠席者及び退学者の削減
  - (vi) 教育設備の充実
  - (vii) 地域活動及び異文化交流・社会貢献の推進
  - (viii) 社会人へのマインドチェンジの促進
  - (ix) 生活指導（アルバイト・在留カード等）の徹底
- (c) 具体的方策

(i) 在籍管理とマナーの育成

日頃から一人ひとりの行動に留意し、出席率の95%維持に努めるとともに、学習態度や生活態度の変化を見逃さないよう、職員全員が情報共有し、早期発見、早期指導を行う。また、社会に出た時に恥ずかしくないよう、日頃からマナーを意識させ、挨拶、服装、言葉遣い、整理・整頓等に留意する。

(ii) 特色あるカリキュラムの編成

◇国際コミュニケーション科

- ①大学進学希望者の日本語応用力・読解力・聴解力の向上
- ②専門学校進学希望者に対する日本語能力試験対策授業の強化、及び日本語能力試験N2の合格率の向上
- ③志望動機・研究計画書の作成方法、面接、身だしなみの指導の徹底

◇日越通訳・翻訳科

- ①通訳者・翻訳者に求められる語学の運用力、理解力の向上、及び日本語の上級レベル（N1）への到達
- ②ビジネスマナー、パソコンスキル、キャリアアップ教育の促進
- ③就職後に求められるチームワーク力、マネジメント力の育成
- ④ボーダレス社会で活躍できるヒューマン・コミュニケーション能力に優れた人材の育成

◇ブリッジシステムエンジニア科

- ①専門科目の習熟度を高めるための専門用語の日本語フォローアップ
- ②建築・機械・ITの3分野の学習による幅広い業種に対応できる知識の修得
- ③母国と日本の架け橋となるための語学力、技術力、知識力の養成

(iii) 教育設備の充実化

ブリッジシステムエンジニア科学生用ノートパソコン28台の整備と機械CADソフトFusion、AutoCADソフトのインストール、及び3Dプリンターの整備を行う。

また、新型コロナウイルス感染防止対策として、三密回避のために教室用長机を増設する。

### (3) 学生・留学生指導

#### (ア) 個別指導

- (a) 日頃から学生・留学生をよく観察し、悩みや問題点を持つ学生・留学生の早期発見に努め、休・退学を防止する。
- (b) 日頃から学生・留学生の就学状況を保護者と共有できる体制を構築する。
- (c) 教育懇談会等をとおして、家庭の実態を把握し、保護者との信頼関係を築く。
- (d) 学生生活や留学生生活をとおして、規律ある生活態度や社会人として必要なマナーを身に付けさせるにあたり、職員、学校関係者、学校の学生対応についても、常に、良心的で、誠実を心がけ、学生・留学生に見られていることを忘れないようにする。

#### (イ) 集団指導

- (a) 学校内での学習や生活だけでなく、地域活動等にも積極的に参加を促し、立場や背景の異なる他者との良好な関係を築き、秩序ある行動の重要性を指導する。
- (b) さまざまな学校行事や、グループ課題において、自分の考えや意見を伝えながら、他者と協力して、一人ではできないことをチームで達成する経験から、対話の重要性や組織の一員としての動きを理解させる。
- (c) A S Hや入学時のガイダンス等では、異なる背景や文化への理解を促進させるように留意する。また、A S H、課外学習の時間は、2年間を通して、職業観だけでなく、視野が広がるような取り組みを企画し、実施する。
- (d) 引き続き、未成年者の喫煙指導は徹底し、公共のマナーに対する意識の向上を図る。

#### (ウ) 交通安全教育

- (a) 通学途上における交通マナーを向上させ、交通事故を防止する。
- (b) 自己及び他者の生命の大切さを自覚させ、無謀な運転を防止する。
- (c) 留学生に対し、日本国内の交通マナーに関する理解の徹底を図る。

#### (エ) 図書室の利用指導

- (a) 専門図書のほか、幅広い教養を身に付けるための一般図書を充実させる。
- (b) 学生・留学生の読書傾向を調査し、ニーズの高い図書を拡充する。
- (c) 学生・留学生が親しみやすく、学習しやすい場となるような雰囲気にする。



(d) 書籍だけでなくWEB等を活用し、常に新しい情報等が閲覧できるようにする。

#### (4) 進路指導の重点

##### (ア) 重点事項

昨年度までは雇用状況が好調であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴いの雇用状況の影響が出始めている。合同企業説明会等の就職活動イベントや会社説明会が各地で中止や延期、規模が縮小され、建設業界においても建築資材の不足が深刻化しており、こうした状況が長引けば、建設業界や雇用状況に大きく影響する恐れがある。

このような状況の中、本校では、キャリア教育の実践等をとおして、すべての学生・留学生が夢や希望を持ち、自己が求める企業に就職活動の時期を逸することなく、早期に就職できるようにする。

このほか、学生・留学生の適性、興味・関心等を踏まえ、自らの職業観・勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるようにするため、経済産業省が職場や地域社会で暮らしていく必要な力として提唱している「社会人基礎力」、すなわち、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を身に付けさせる。

また、新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

##### (イ) 建築系

###### (a) 目標

学生・留学生が自己を正しく理解し、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成する。

###### (b) 基本方針

###### (i) 自己実現に向けた自主性の育成

各学科やクラス、教科等と連携を密にして、入学から卒業までを見とおした進路指導計画を立案するとともに、学生・留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。

###### (ii) 計画的な進路ガイダンス及び進路指導の推進（学級担任との連携強化）

学級担任と連携し、学生・留学生の職業観・勤労観を育成するとともに、自己分析や企業研究をはじめ、学校求人や自己開拓での就職活動の方法・手段を計画的に指導する。

また、履歴書の作成方法や採用選考等の指導、進路相談等を個別に行い、就職内定へ向けたサポートをきめ細かく行う。

(iii) 学生・留学生の就職活動の早期化の促進

就職活動の時期を逸することなく、学生・留学生が自らの意志と責任でインターンシップ先や就職先を決定することができるようにするため、4月に本校とキャリアマップ合同による合同企業説明会をオンラインで開催する。

また、求人の公開の早期化を図るため、求人依頼を1月に行うとともに、キャリアマップで求人受付を随時行い、公開できるようにする。

(iv) 就職に繋がる効果的なインターンシップの実施

希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、学生・留学生の希望や適性、能力に応じた企業等への採用内定を促進させるため、産学接続を踏まえたより効果的なインターンシップを実施する。

(v) 研究科への内部進学への促進

進学ガイダンスや個人面談を計画的にきめ細かく行い、広報と連携し、研究科への内部進学を促進する。

(vi) 新型コロナ禍における就職活動の対策

新型コロナウイルス感染症が求人や就職活動にどのように影響を与えているかを正確に把握し、情報収集を行い、進路指導を行う。

(c) 具体的方策

(i) 求人企業・求人数の確保

①新規求人開拓の促進

進路希望調査をもとに、一人ひとりの学生・留学生の希望分野・職種等について適切に把握するとともに、関係の大手企業や優良企業に対する求人開拓を積極的に行う。

また、留学生の受け入れ企業の情報収集や求人開拓等を行う。

②関係団体との連携・産学共同プロジェクトの促進

進路指導の改善・向上のため、関係諸団体主催の研修会等に積極的に参加し、企業との関係を強化するとともに、外部団体が開催しているセミナーや講習会等に学生・留学生を積極的に参加させ、建築に係わる幅広い知識・技術を習得させるようにする。

また、産学協同プロジェクトをとおして、企業が求める能力（社会人基礎力）や人材等を把握し、教育に反映させ、魅力ある学校づくりを進めるようにする。

### ③インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ等）の活用

学生・留学生一人ひとりが自ら積極的に企業研究や情報収集、求人応募エントリー等を行えるようにするため、インターネットを利用した就職支援サイト（マイナビ・キャリアス等）の活用について、進路ガイダンス等をとおして指導する。

## （ii）進路指導の充実化

### ①就職指導サポートシステム（キャリアマップ「大専各」）の活用

（一社）大阪府専修学校各種学校連合会（大専各）が推進する

- ・大専各のスケールメリットを活かした求人情報（新規・既卒）の提供
- ・新規求人票のデータ入力、データ更新の代行（キャリアマップ法人事務局）
- ・就職活動の進捗状況の記録（応募、面接、内定承諾等）と学級担任との情報共有
- ・会社説明会等案内の学生・留学生への一斉告知（メッセージボックスによる最新情報の提供）

等を含めたキャリア教育・就職指導サポートシステム「キャリアマップ」を活用し、求人票の整理やデータ入力の効率化を図り、学生・留学生へのキャリア教育・進路指導を強化する。

### ②就職支援サイト担当者による進路ガイダンスの充実化

マイナビやリクナビ等の担当者による就職支援サイトの登録や活用方法の指導を行う等、進路ガイダンスの充実化を図るようにする。

また、就職支援サイト主催の就職セミナーへの参加方法やイベントの告知をきめ細かく行い、就職活動に対する意識の強化と早期化を促すようにする。

### ③合同企業説明会（主催：本校及びキャリアマップ）の開催

インターンシップ先の検討及び就職活動の一環として、本校及びキャリアマップ主催の合同企業説明会をオンラインで開催する。

採用実績があり、インターンシップや求人を受け付けている建築、住宅、インテリア、CG等の分野の企業を招聘し、オンラインで人事担当者や卒業生からの自社の業務内容や雇用条件等の説明を踏まえ、自らが望む企業への採用や業務への従事等を促進させるようにする。

## （iii）その他

### ①校友会との連携の促進

校友会（同窓会）と連携し、卒業生の社会的貢献活動や離転職等の状況を的

確に把握する。

## (ウ) 国際系

### (a) 目標

留学生の一人ひとりの希望進路を把握し、自己を正しく理解させ、自らの意志と責任で進路を選択する能力を育成する。

### (b) 基本方針

#### (i) 留学生の希望進路・特性の早期把握

近年、大学及び専門学校への留学生の出願数が大幅に増加しており、これに伴い、出願期間が短期化されたり、入試の難易度が高くなったりしている。

このため、留学生の希望する進路と留学生自身の特性及び日本語能力を早期に把握し、適切な進路指導を行うようにする。

#### (ii) 留学生の大学院・大学・専門学校への進学、及び就職に関する精緻な情報の収集

留学生の大幅な増加に伴い、大学・専門学校における留学生に求める基準が高くなる等、進学を取り巻く環境が著しく変化しており、このため、常に最新の進学情報の把握に努めるようにする。

また、就職については、企業・団体に向けて留学生のニーズに関するヒアリングを積極的に行うようにする。

#### (iii) 将来を見据えた長期的な進路指導計画の立案

進路について、在留資格の継続に重きを置くのではなく、留学生自身の将来を見据えた視点から選択するように指導する。

#### (iv) 計画的な進学指導・準備の実践

大学・専門学校への出願や企業への応募にあたっては、締切日や選考日程を踏まえ、時間的に余裕をもった関係書類を送付するように指導する。

#### (v) 内部進学への推進

日越通訳・翻訳科、ブリッジシステムエンジニア科の回し合格者に関しては、必要な日本語レベル等を十分意識させたいうえで、そのレベルを引き上げ、内部進学させるようにする。

#### (vi) 自己実現に向けた自主性の育成

各学科やクラス、教科等と連携を密にして、入学から卒業までを見とおした進路指導計画を立案するとともに、留学生一人ひとりが自らの考えや行動等に基づいて、自己実現を果たす能力を育成する。

#### (vii) 計画的な進路ガイダンス及び進路指導の推進

留学生の職業観・勤労観を育成するとともに、日本企業が留学生に求める人物像を分析し、学校求人や自己開拓での就職活動の方法・手段を計画的に指導する。

また、履歴書の作成方法や採用選考等の指導、進路相談等を個別に行い、就職内定へ向けたサポートをきめ細かく行う。

(viii) 就職につながる効果的なインターンシップ先の開拓

希望職種と実務とのミスマッチによる早期離職の防止のほか、留学生の希望や適性、能力に応じた企業等への採用内定を促進させるためのインターンシップ先を開拓する。

(c) 具体的方策

(i) 定期的な進路調査・面談の実施

事前に行った進路調査をもとに、留学生の学力・意志に沿ったきめ細かい指導が行えるようにするため、定期的に進路調査と個人面談を実施し、個々の留学生の進路スケジュールを具体的に計画する。

(ii) 留学生の校外ガイダンス・就職イベントへの参加の促進

進学や就職イベントに積極的に参加させ、大学・専門学校をはじめ、企業に対する知識を深め、進学や就職試験に備えるようにするとともに、受験生あるいは就活生であることを客観的に意識させるようにする。

(iii) 進路指導に係わる校外研修・セミナーへの参加の推進

変化の激しい留学生の進学・就職状況を精緻に把握し、適切な進路指導を行うため、職員が研修会やセミナーに積極的に参加し、進路に関する情報をアップデートしていくようにする。

(iv) 進学・就職に必要な試験（日本留学試験・日本語能力試験）の受験の徹底

日本留学試験又は日本語能力試験の認定レベルやスコアの提示を出願・応募要件としている大学・専門学校や企業が増加しているため、必ずこれらの試験を受験させ、出願や応募の機を逃さないようにする。

(v) 受験校及び応募企業の早期決定の推進

受験校又は応募企業を早期に決定することにより、よりきめ細やかな進路指導、出願応募書類の準備、面接指導の時間が確保されるため、留学生と職員の連携を図りながら進路決定の早期化を促進させるようにする。

(vi) 受験スケジュール（出願期間・試験日・入学手続等）管理の強化

募集定員満了に伴う出願期間の短縮化や試験日の重複、学費納入締切日等に留意し、遺漏のないようにする。

(vii) 就職内定後の在留資格変更に関する情報・必要書類準備の周知

(viii) 学級担任及び職員間の留学生の進路に係わる情報共有の促進

(ix) 授業内での企業の定期的な招集

授業内での企業招集を定期的に行い、本校の取り組み、学生をアピールする機会を設ける。

(x) 新型コロナ禍における適切かつ多様な進路の提案

新型コロナウイルス感染症が留学生の求人にどのような影響を与えているかを正確に把握し、日本での就職を希望する学生に対し、現実的な進路として、どのような分野、地域での就職が目指せるのか、情報収集を行い、明示し、指導を行う。また、帰国を希望者には、現地日系企業での就職先に道筋をつけ、大学編入を目指す者には、進学指導を行い、特定技能での就労を希望する者には、技術試験を受験させる等、個々の能力と希望を見極め、適切かつ多様な進路を提案する。

### 3 学級担任

課程	系	区別	学 科 名	1 年	2 年
工業専門課程	建築系	昼間	研究科	戸澤まり子	—
			建築学科	平上 秀明	岡野 和生
			住宅デザイン科	吉田 知恵	西村 宜晃
			インテリアデザイン科	唐木 恵美	戸澤まり子
文化・教養 専門課程	国際系	昼間	ブリッジシステムエンジニア科	井手 万里	藤田 靖
		昼間	国際コミュニケーション科	森元 早苗	—
			日越通訳・翻訳科	PHAN VAN TAM	大串いづみ

### 4 教務室分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
事務部門	総務・労務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子
	経理	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、嶋田 享子
	管財	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治
教育部門	教育	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治、野村 裕子、北野 裕子
	教務	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、魚住 正治、山下 幸代、野村 裕子、北野 裕子、嶋田享子
	生涯学習	原 充介、檜崎 悟志、上本 佳直、山下 幸代、野村 裕子

### 5 建築系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	中島 征治、清本 真沙実、福原 奈美、藤井 紫真
	出願	中島 征治、清本 真沙実、福原 奈美、藤井 紫真
	受付	中島 征治、清本 真沙実、福原 奈美、藤井 紫真
	進路指導	中島 征治、林殿 泉、溝口 有里、岡田 ひろみ
	図書	中島 征治、林殿 泉、溝口 有里、岡田 ひろみ

### 6 国際系広報・進路部門分掌構成員

部 門	分 掌	担 当 者
広報・進路部門	広報	大串 いづみ、金村 優美
	出願	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里
	受付	大串 いづみ、金村 優美、栗本 真里
	進路指導	大串 いづみ、藤田 靖、井手 万里、PHAN VAN TAM、金村 優美、栗本 真里
	図書	金村 優美、栗本 真里

7 行事予定表

◇前期

R3/4月		R3/5月		R3/6月		R3/7月		R3/8月		R3/9月	
1 木	職員全体会議	1 土 一般 休暇日	インターンシップ開始 (建築系2年)	1 火	AO入試エントリー開始	1 日				1 水	夏季休暇後授業開始(研究科以外) 前期試験結果発表 AO入試入学願書受付開始
2 金		2 日		2 水		2 月				2 木	
3 土	オープンキャンパス(1)	3 月 憲法 記念日	授業日(研究科)	3 木		3 土	オープンキャンパス(7) 一般 休暇日			3 金	
4 日		4 火	授業日(研究科)	4 金		4 日	二級建築士(学科の試験) 日本語能力試験(第1回)			4 土	一般 休暇日
5 月		5 水	授業日(研究科)	5 土	一般 休暇日	5 月	↓			5 日	
6 火	教職員会議	6 木	クールビズ開始(10/3迄)	6 日		6 火	↓			6 月	
7 水		7 金	消防訓練	7 月		7 水	↓			7 火	
8 木	入学式	8 土	オープンキャンパス(3)	8 火		8 木	↓			8 水	前期追試験開始
9 金	ガイダンス (研究科・建築系2年・国際系2年) 学生・職員健康診断	9 日		9 水		9 金	インターンシップ終了 (建築系2年)			9 木	↓
10 土	一般 休暇日	10 月		10 木		10 土	↓			10 金	↓
11 日		11 火		11 金		11 日				11 土	オープンキャンパス(14) AO入試(7)選考 国際系オープンキャンパス(7)
12 月	ガイダンス (建築系1年・国際系1年)	12 水		12 土		12 月				12 日	二級建築士(設計製図の試験)
13 火	前期授業開始	13 木		13 日		13 火	↓			13 月	前期追試験終了
14 水		14 金		14 月		14 水	↓			14 火	前期追試験結果発表
15 木		15 土	一般 休暇日	15 火		15 木	↓			15 水	
16 金		16 日		16 水		16 金	↓			16 木	前期授業終了(研究科)
17 土	一般 休暇日	17 月		17 木		17 土	オープンキャンパス(8) 一般 休暇日			17 金	
18 日		18 火		18 金		18 日				18 土	一般 休暇日
19 月		19 水		19 土	一般 休暇日	19 月				19 日	
20 火		20 木		20 日		20 火				20 月	敬老 の日
21 水		21 金		21 月		21 水				21 火	AO入試(1)書類審査
22 木	課外研修(V1・2・Z1・2)	22 土	一般 休暇日	22 火		22 木	海の日			22 水	
23 金		23 日		23 水		23 金	スポーツ の日			23 木	秋分 の日
24 土		24 月		24 木		24 土	一般 休暇日			24 金	第1回教育課程編成委員会
25 日		25 火		25 金		25 日				25 土	オープンキャンパス(15) 一般 休暇日
26 月		26 水		26 土	一般 休暇日	26 月	前期定期試験開始			26 日	AO入試(8)選考 国際系オープンキャンパス(8)
27 火		27 木		27 日		27 火	↓			27 月	国際系入学願書受付開始
28 水	合同企業説明会	28 金		28 月		28 水	↓			28 火	前期成績会議
29 木	授業日(研究科)	29 土		29 火		29 木	前期定期試験終了			29 水	
30 金		30 日		30 水		30 金	夏季休暇前授業終了(研究科以外)			30 木	前期授業終了
31 月		31 月				31 土	一般 休暇日				

※L・研究科 A・建築学科 U・住宅デザイン科 I・インテリアデザイン科 X・国際コミュニケーション科 W・日越通訳・翻訳科 Z・ブリッジシステムエンジニア科



7 行事予定表

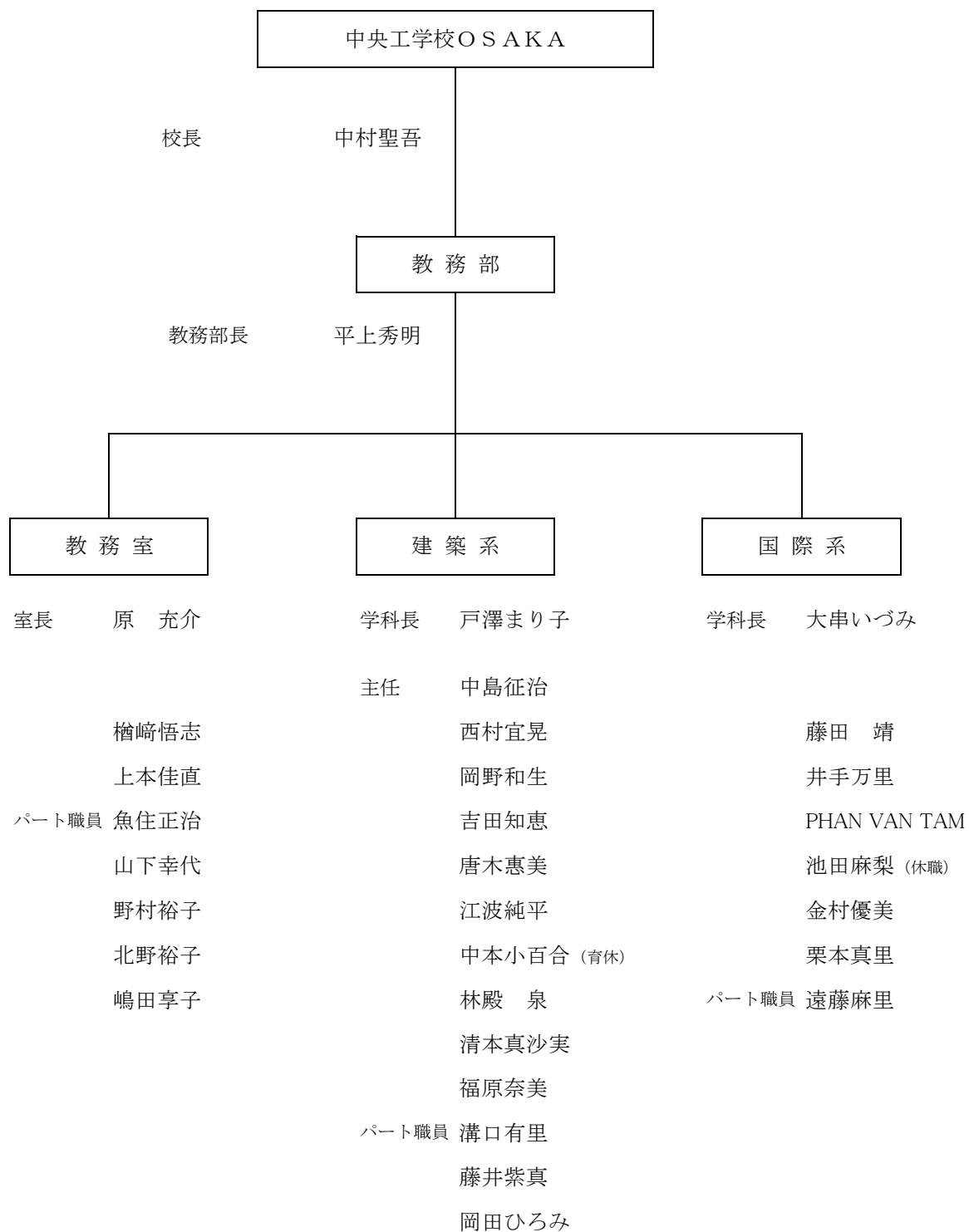
◇後期

R3/10月			R3/11月			R3/12月			R4/1月			R4/2月			R4/3月		
1 金	後期授業開始(研究科以外) 入学願書受付開始	1 月	イケフエス大飯撤収(建築系)	1 水	年末年始休暇(1/4迄)	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	1 火	
2 土	一般 休暇日	2 火	休日	2 木	↓	↓	2 日	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水	2 水	
3 日	文化 の日	3 水		3 金	一般 休暇日	↓	3 月	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木	3 木	
4 月	建築施工実習開始 (建築学科、住宅デザイン科1年)	4 木	後期授業開始(研究科)	4 土	↓	↓	4 火	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金	4 金	
5 火	↓ A O入試(2)書類審査	5 金		5 日	日本語能力試験(第2回)	↓	5 水	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土	5 土	
6 水	↓	6 土	一般 休暇日	6 月			6 木	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	
7 木	↓	7 日		7 火			7 金	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月	7 月	
8 金	建築施工実習終了 (建築学科、住宅デザイン科1年)	8 月		8 水			8 土	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火	8 火	
9 土	オープンキャンパス(16) 国際系オープンキャンパス(9)	9 火	A O入試(4)書類審査 国内建築研修開始(研究科)	9 木			9 日	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水	9 水	
10 日		10 水	↓ 研修旅行(V2・Z2)(11/1迄)	10 金			10 月	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木	10 木	
11 月	国際系入学選考(1)	11 木	↓ ↓	11 土			11 火	11 火	11 火	11 火	11 火	11 火	11 火	11 火	11 火	11 火	
12 火		12 金	国内建築研修終了(研究科)	12 日			12 水	12 水	12 水	12 水	12 水	12 水	12 水	12 水	12 水	12 水	
13 水		13 土	オープンキャンパス(18) 一般・推薦入試選考(2) 国際系個別相談会	13 月	国際系入学選考(5)		13 木	13 木	13 木	13 木	13 木	13 木	13 木	13 木	13 木	13 木	
14 木	研修旅行(V1・Z1)(10/1迄)	14 日	日本留学試験(第2回)	14 火			14 金	14 金	14 金	14 金	14 金	14 金	14 金	14 金	14 金	14 金	
15 金	↓	15 月	国際系入学選考(3)	15 水			15 土	15 土	15 土	15 土	15 土	15 土	15 土	15 土	15 土	15 土	
16 土	一般 休暇日	16 火		16 木			16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	
17 日		17 水		17 金			17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	17 月	
18 月		18 木		18 土	オープンキャンパス(19) 一般・推薦入試選考(3)		18 火	18 火	18 火	18 火	18 火	18 火	18 火	18 火	18 火	18 火	
19 火	A O入試(3)書類審査	19 金	スポーツ大会	19 日			19 水	19 水	19 水	19 水	19 水	19 水	19 水	19 水	19 水	19 水	
20 水		20 土	一般 休暇日	20 月			20 木	20 木	20 木	20 木	20 木	20 木	20 木	20 木	20 木	20 木	
21 木		21 日		21 火			21 金	21 金	21 金	21 金	21 金	21 金	21 金	21 金	21 金	21 金	
22 金	指定校推薦入試選考(1)	22 月		22 水			22 土	22 土	22 土	22 土	22 土	22 土	22 土	22 土	22 土	22 土	
23 土	一般 休暇日	23 火	勤労感 謝の日	23 木			23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	
24 日		24 水		24 金	冬季休暇前授業終了		24 月	24 月	24 月	24 月	24 月	24 月	24 月	24 月	24 月	24 月	
25 月		25 木		25 土	一般 休暇日		25 火	25 火	25 火	25 火	25 火	25 火	25 火	25 火	25 火	25 火	
26 火		26 金		26 日			26 水	26 水	26 水	26 水	26 水	26 水	26 水	26 水	26 水	26 水	
27 水		27 土	一般 休暇日	27 月	冬季休暇(1/7迄)		27 木	27 木	27 木	27 木	27 木	27 木	27 木	27 木	27 木	27 木	
28 木	イケフエス大飯準備(建築系) (10/29迄)	28 日		28 火	仕事納め		28 金	28 金	28 金	28 金	28 金	28 金	28 金	28 金	28 金	28 金	
29 金	↓	29 月	国際系入学選考(4)	29 水	年末年始休暇(1/4迄)		29 土	29 土	29 土	29 土	29 土	29 土	29 土	29 土	29 土	29 土	
30 土	一般 休暇日	30 火	オープンキャンパス(17) 一般・推薦入試選考(1) イケフエス大飯公開(建築系)(10/3迄)	30 木	↓		30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	
31 日	↓	31 月	課外研修(国際系1・2年)	31 金	↓		31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	31 月	

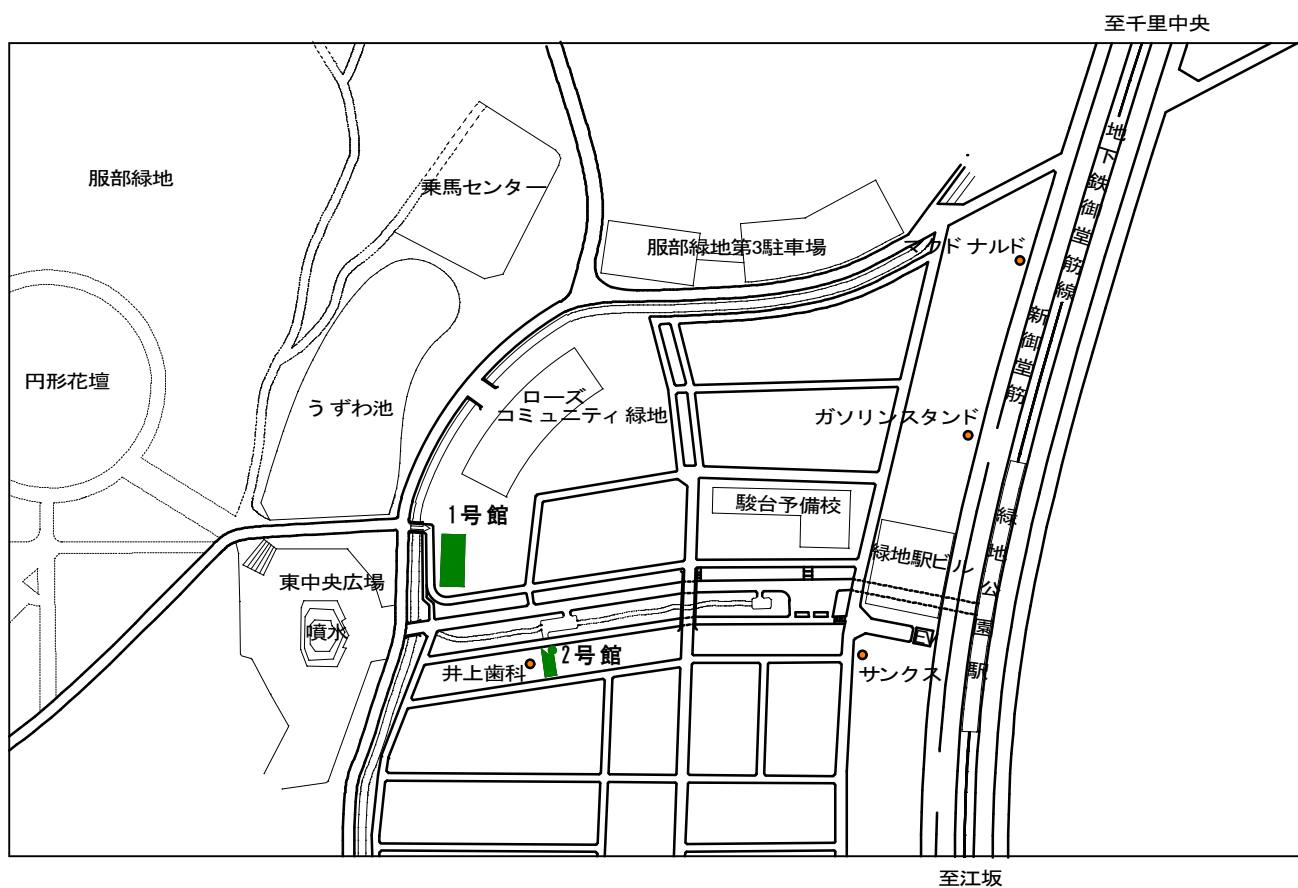
※L・・・研究科 A・・・建築学科 U・・・住宅デザイン科 I・・・インテリアデザイン科 X・・・国際コミュニケーション科 V・・・日越通訳・翻訳科 Z・・・ブリッジシステムエンジニア科

# 参 考 资 料

## 8 職員組織表



## 9 付近見取図



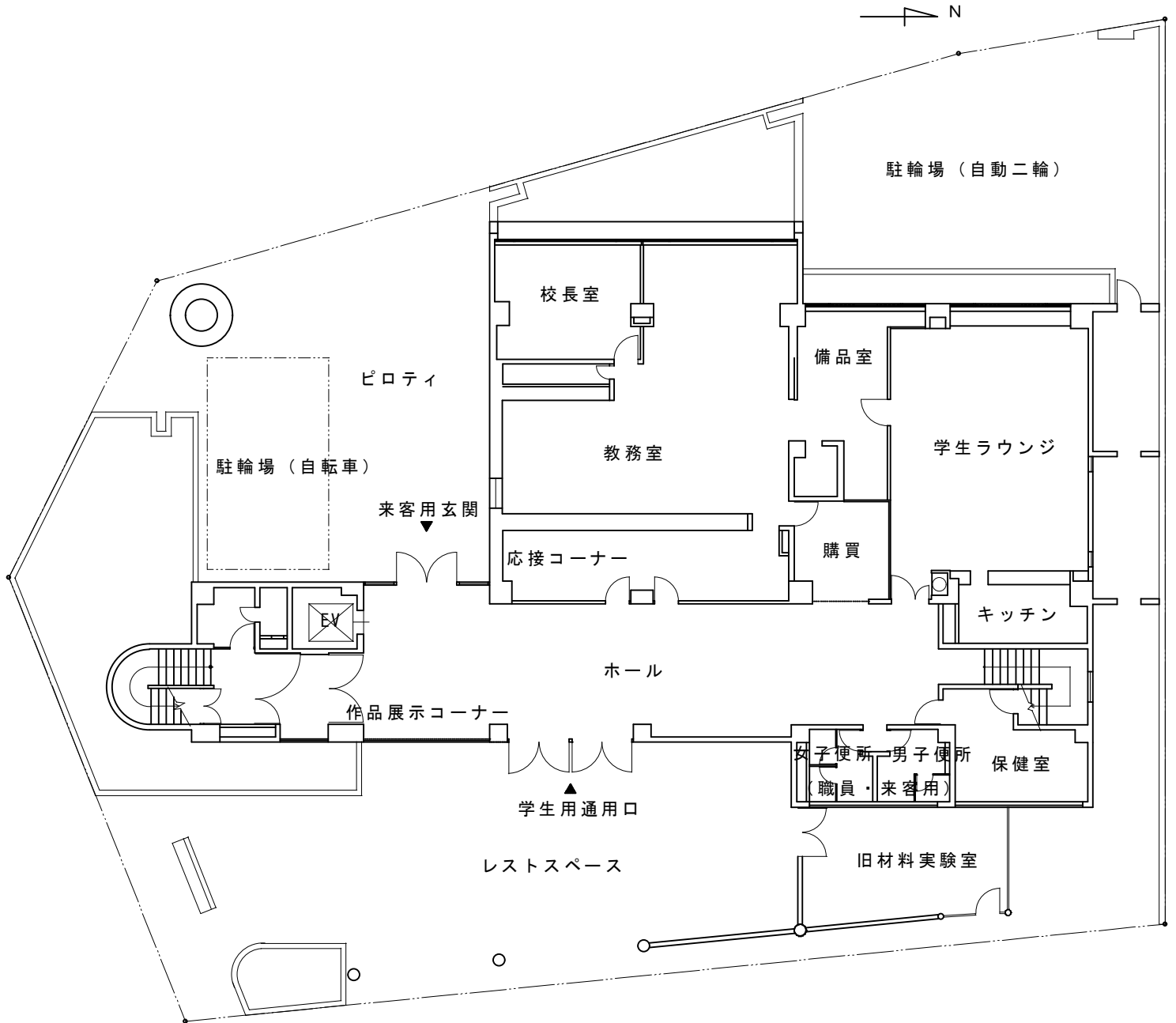
学校法人 中央工学校

中央工学校 O S A K A

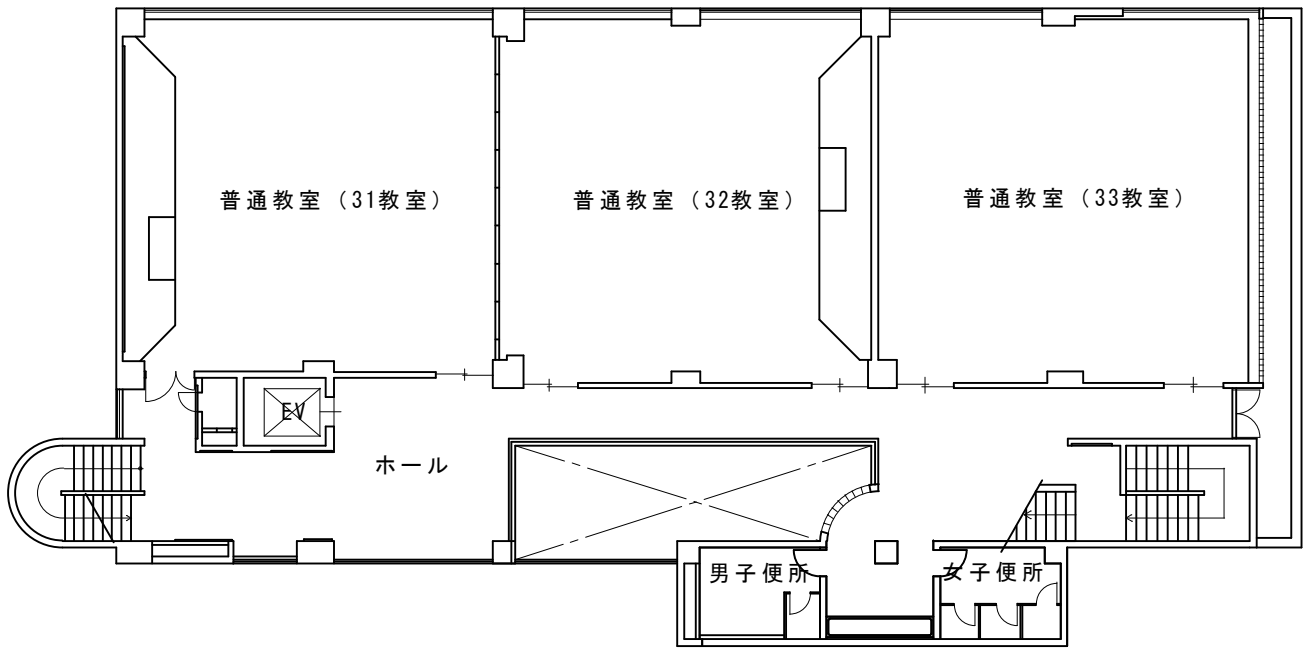
〒561-0872 大阪府豊中市寺内一丁目1-4 3 TEL06-6866-0800 FAX06-6866-1616

# 10 校舎配置図

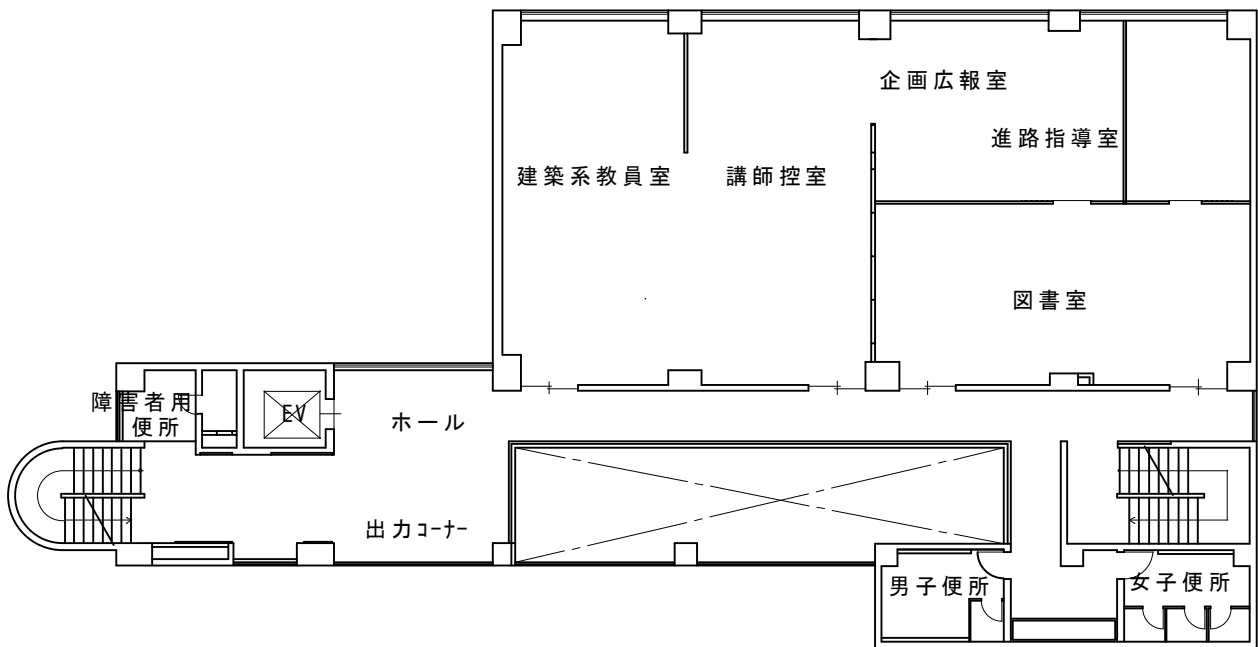
○ 1号館



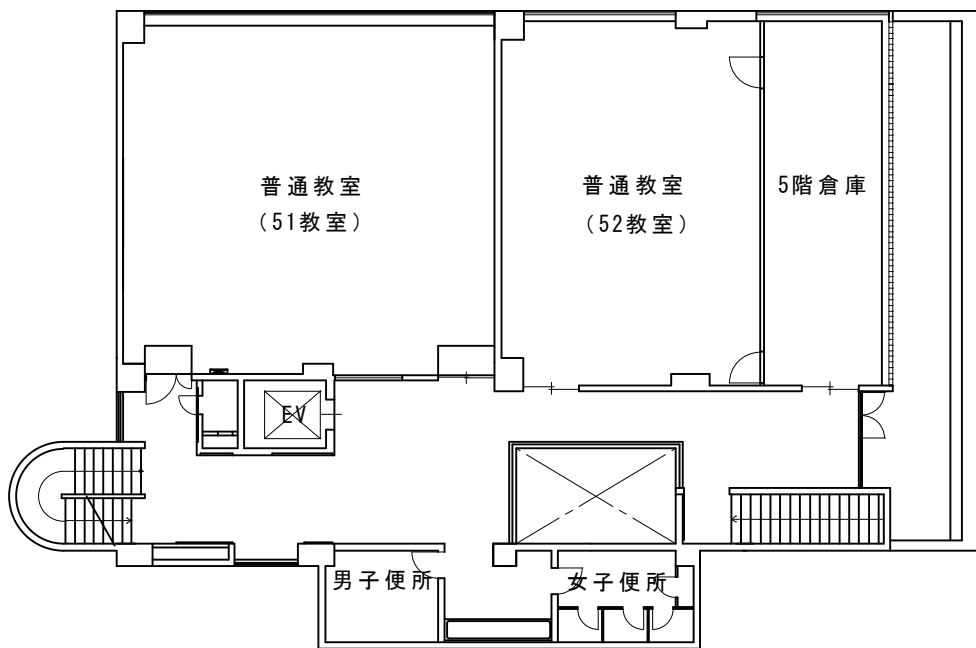
敷地配置図・1階平面図



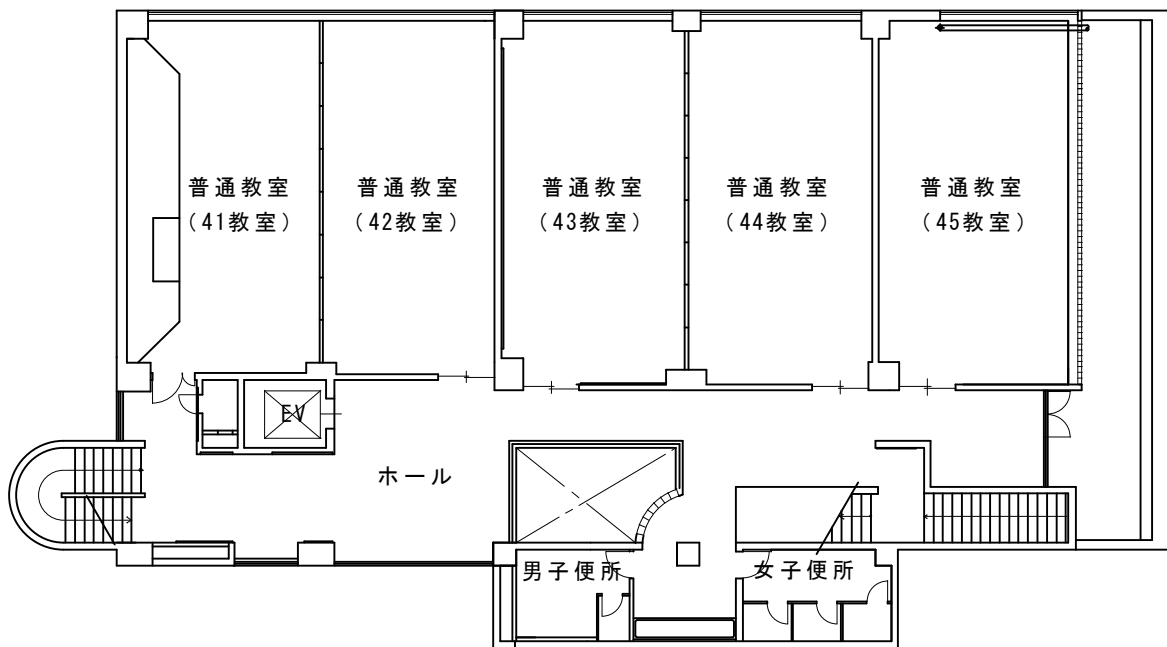
3階平面図



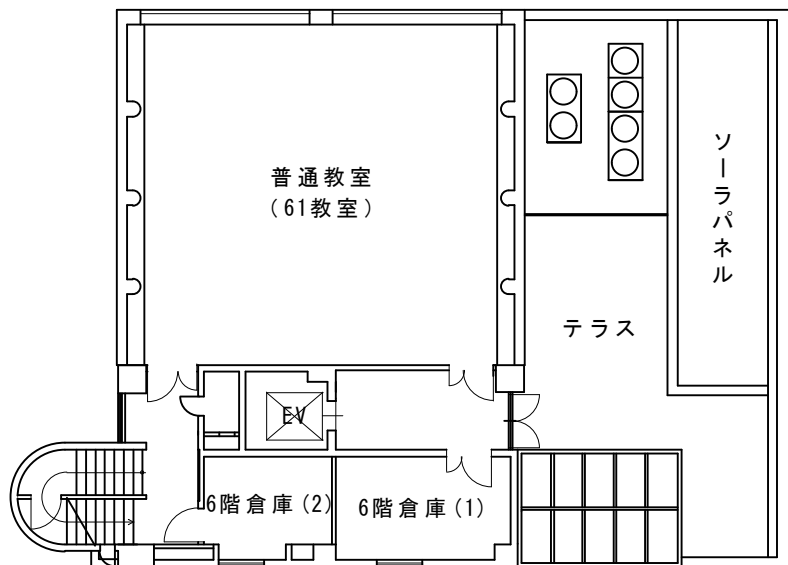
2階平面図



5階平面図



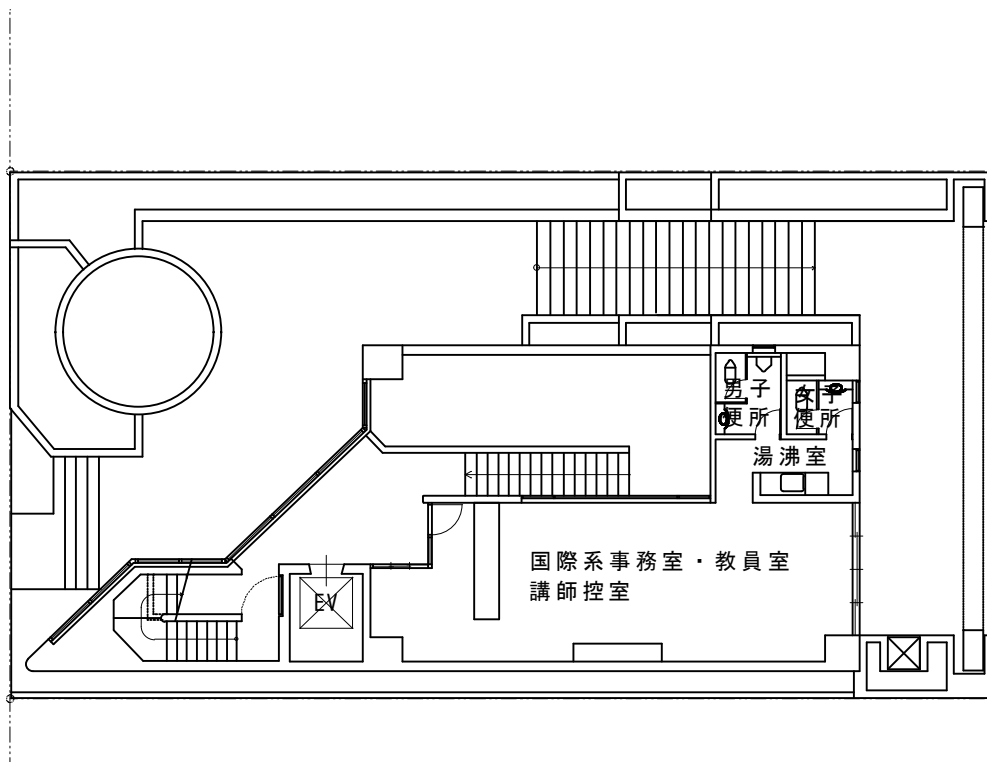
4階平面図



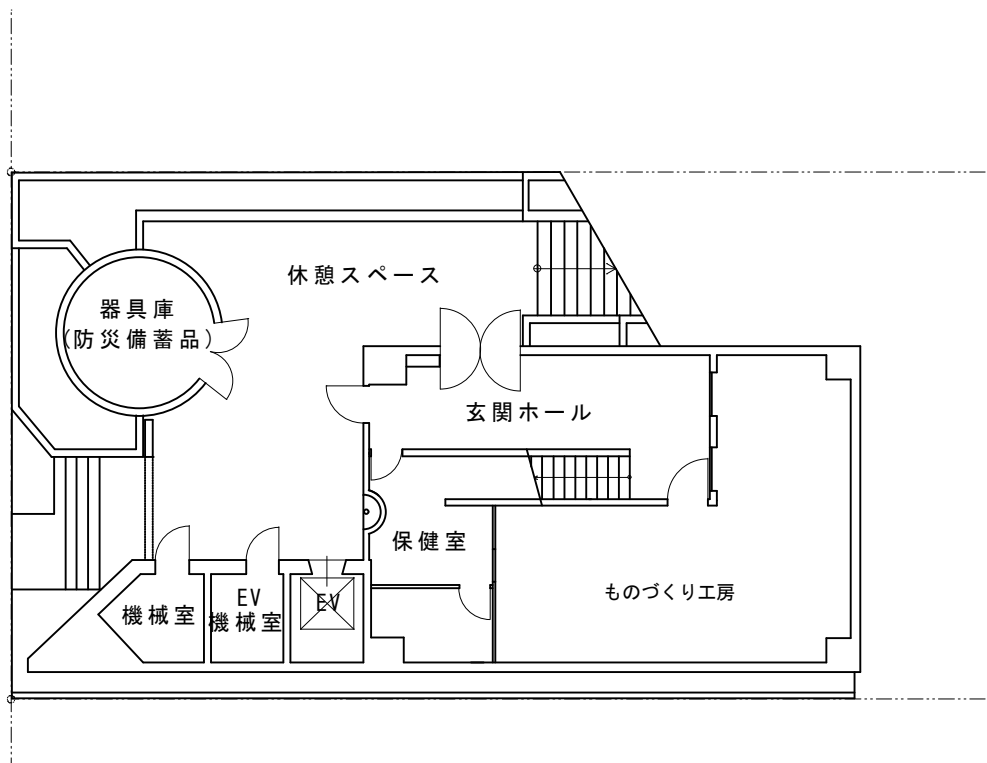
6 階 平 面 図



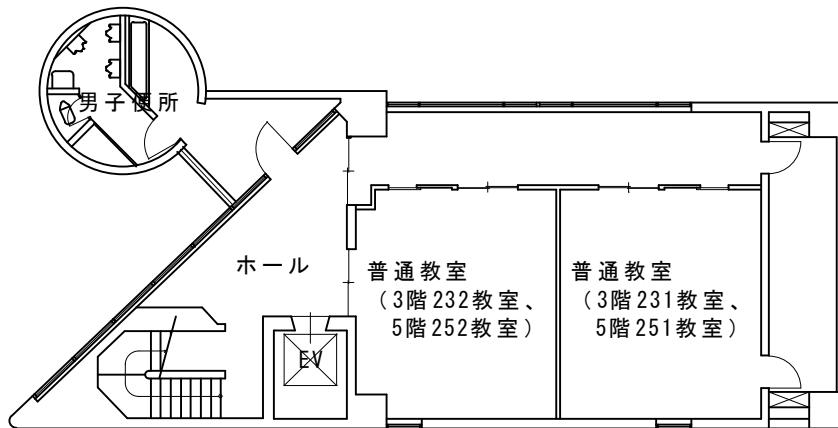
○ 2号館



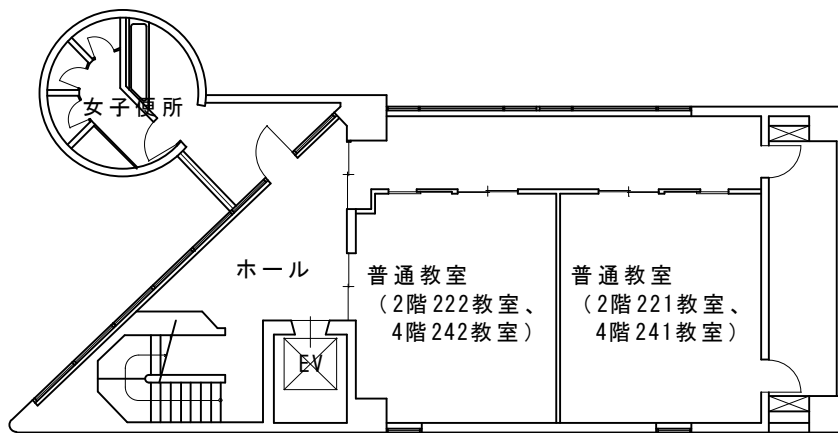
1 階平面図



敷地配置図・地下1階平面図



3 . 5階平面図



2 . 4階平面図